

勿来第一中学校だより

く ん ぶ う



薫風



ゆえん
【校章の所以】

平和の鳩を表すとともに中学の中を表す。また、勿来の関の桜や「勿」のデザインをイメージしている。

発行責任者 校長 丹野 英雄

第6号 令和4年7月19日発行

7月5日から7日に開催された県中体連陸上大会では男子が共通3000mで第4位入賞。女子が共通800mで第2位、共通四種競技で第3位、2・3年1500mで第6位に入賞を果たしました。なお、上位4位までの入賞者には東北大会の出場権が与えられました。さらに、女子共通800mと女子2・3年1500mに出場した2選手は、今大会で全国標準記録を突破したため、全国大会への出場権を獲得することができました。また、7月16日に開催された県吹奏楽コンクールいわき支部大会では、本校吹奏楽部が銀賞を受賞しました。今後、県中体連総合大会が7月21日から開催されます。こちらの活躍にも期待しましょう。

さて、間もなく第1学期が終了し、夏休みを迎えます。長い夏休み。あなたは、どう過ごしますか。かつて、次のような気持ちを記した生徒がいました。

…”勝負の夏”最近、先生がそんな言葉をよく口にする。友だちも、いつもよりちよつとだけ、ピリツとしている気がする。そうなんだ、多分。今、天王山ってとこにいるんだ。俺たち。でも正直、よく分からない。勝負の夏だからって、一体、何をしたらいいんだろう。朝から晩まで、一日中机にかじりついてたら、頑張ったってことになるのだろうか？恋愛とか、旅行とか。

そういう青春っばいこと、ぜんぶ我慢したら、勝負に勝ったってことになるのだろうか？ふと、去年の夏休みの練習を思い出した。ただただキツくて、諦めることばかり考えてた、あの夏…。練習を休む言い訳を、いつも探し歩いてた。それでも、なんで諦めなかつたんだろ。あんなに辛かったのに、結局は続けた。あれって、なぜだったんだろう。理由は、よくわからない。だけど、その夏を境に自分の中で何かが変わった。あの夏を過ぎてから、前だけを見て進むようになった。そうか、夏か。頑張るなら今だ、きつと。…

夏に挑戦した人は、将来の夢を語る資格が与えられます。夏に逃げ出した人は、言い訳を語る資格が与えられます。誰も言い訳だらけの夏にはしたくはないはずです。特に3年生には、その覚悟を持って夏休みを迎えてほしいと思っています。また、夏休みは、家族と過ごす時間が増える時期でもあります。家庭での手伝いや家族の手助けができれば、「助かるな～。この子も成長したな～。」って、家の人もきつと思わずです。3年生は勿論のこと、1・2年生も勉強や部活動に加えて、家の手伝いも率先して取り組むよう期待しています。そして、8月25日には、全校生徒が元気に第2学期の始業式を迎えられるように願っています。

陸上県大会で賞状を手にした本校選手



全国標準記録突破を祝福する電光表示



演奏後に記念撮影する吹奏楽部員



長い夏休み…あなたは何に挑戦しますか？

「見守られる側」から「見守る側」へ

子供たちのまわりには、犯罪や交通事故、自然災害など、さまざまな危険が潜んでいます。そのような危険から子供たちの安全・安心を確保する上で、交通指導員の方をはじめ、保護者や地域の皆さんによる日頃からの見守りは大変に心強く、感謝しております。

さて、危険から子供を守るためには、大人が安全・安心な環境を整えることに加え、もうひとつ大切な視点があります。それは「安全教育」です。「安全教育」とは、危険を察知し、回避する力を身に付けるために行う教育です。欧米では、「子供が池に落ちないように柵で囲おう」という発想ではなく、「池に落ちた時でも溺れないように泳ぎを教えよう」という発想をするそうです。生活している以上、危険はつきもの。いざ、危険に遭遇した時の対処法を体得しておくことが大事だという教えですね。

親や先生といっても子供一人一人を24時間見守り続けることは不可能です。大人の目が届かない時間帯や場所など、死角や盲点が生まれてしまうからです。そのような場合でも、子供が自分^{すべ}に起こりうる危険を予測し、自らの身を守る術を知っていれば、かなりのリスクを回避できるでしょう。親が子供の安全・安心を思ってGPS機能付きのスマートフォンを

持たせて居場所を確認しようとしても、子供自身がSNSを介して不審な人物と知り合ってしまったとしたら、何が安全・安心かわかりません。ですから、安全・安心な環境を整えることと併せ、子供たち自身に危険を察知し、回避する力を身に付けさせる必要があるのです。

信号機がある交差点で横断待ちしている時でも、道路間際よりも奥まった場所にいるほうが事故に遭うリスクは格段に減ります。少しでも早く横断したい気持ちはあるでしょうが、「ハンドル操作を間違った車が突っ込んできたら危ないな」と予測する力も持たせたいと思います。中学生は、その判断力や行動力を体得する上での適切な年代ともいえます。

小学生の頃は、大人の人に「見守られる側」であったでしょう。しかし、これからは小さな子供を「見守る側」へと成長が期待されます。安全・安心な暮らしを守るためには、地域ぐるみで、そのような安全教育のサイクルを構築していく必要があると感じています。中学生が、今まで教え導いてもらった知識や行動の仕方を今度は伝える側になるのです。中学校では、自分自身はもちろんのこと周囲の人の安全にも配慮した行動がとれる生徒の育成をこれからも目指していきます。

【2年生はファイナンスパークを実体験しました。】

7月4日(月)にいわき市平にある体験型経済施設E1em(エリム)に2年生が出かけ、家計のやりくりなどを実践的に学びました。生徒たちは与えられた条件の中で収支バランスを考え、黒字を出せるように知恵を出し合いながら体験活動に取り組んでいました。

なお、ボランティアとして多くの保護者の方々にご協力いただきました。お忙しい中、大変お世話になりました。ありがとうございました。

【1年生と3年生は思春期講座を受講しました。】

1年生は講師に、いわき市医療センター看護部の助産師の方をお招きし、7月7日(木)5校時に「生命誕生のすばらしさ」について講義していただきました。3年生は、7月6日(水)6校時に、いわき市医療センター地域産婦人科支援講座教授の先生から興味本位の安易な性交渉が心身にダメージをもたらす事案や性感染症の事案など、ご指導を受けました。

開放的な気持ちになりがちな夏休みですが、生徒の皆さんには性に関する正しい知識を理解し適切な行動選択をしてほしいと願っています。

【教育目標】

自ら進んで学習する生徒
礼儀正しく思いやりのある生徒
心身共に健康でたくましい生徒



QRコードを読み取ると本校ホームページにつながります。

〒979-0141

福島県いわき市勿来町窪田伊賀屋敷102番地の2

TEL 0246-64-7221 FAX 0246-64-7264

E-mail : nakoso1-jh@city.iwaki.lg.jp